

## 奈良市もてなしのまちづくり推進委員会【第2回会議録】

- 1 日時 平成21年8月25日(水) 午前10時から
- 2 場所 奈良市役所中央棟6F 第1研修室
- 3 出席者
- 【委員】 村上良雄委員長、根田克彦副委員長、奥西正博委員、佐川肇委員、  
崎山昌彦委員、佐野純子委員、中野聖子委員、中山徹委員、野原純子委員、
- 【市職員】 企画政策課長、及び事務局

### 4 会議次第

- ① 開会
- ② 奈良市もてなしのまちづくり推進行動計画について
1. 計画の骨子の検討
2. もてなしポイント・もてなしポイント部会についての検討
3. 取り組みアイデア・意見交換
- ③ 閉会

### 5 会議資料

- ① 奈良市もてなしのまちづくり推進委員会 第2回会議次第
- ② 奈良市・他市における行動計画の目次
- ③ 奈良市もてなしのまちづくり推進行動計画骨子(案)
- ④ 「もてなしのまちづくり」ガイドラインについて【崎山委員作成】
- ⑤ 参考資料(もてなし事例)

### 6 議事

#### (1) 開会

ただ今から、第2回奈良市もてなしのまちづくり推進委員会を開催させていただきます。本日の司会を務めさせていただきます、企画政策課の吉村でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は、崎山委員につきましては、遅れて出席するというご連絡がまいっております。企画部長の森本、観光戦略室長の和井田につきましては、所用で欠席させていただきます。よろしくお願い申し上げます。

それでは、1つご報告ですけれども、このもてなしのまちづくり推進行動計画の策定について、6月末にコンサルタント会社と委託契約をしました。委託業務につきましては、この会議録の作成及び庁内の委員会の会議録、あとは事務局との打ち合わせの文書化及び資料の収集、それから、出来上がった後の、市民への啓発のためのパンフレット等のデザインとか、啓発方

法についての支援ということでございます。よろしく申し上げます。

それではお手元の次第に沿って進めさせていただきます。本日お配りいたしました資料の確認をさせていただきます。まず、奈良市もてなしのまちづくり推進委員会第2回会議次第、奈良市・他市における行動計画の目次、奈良市もてなしのまちづくり推進行動計画骨子(案)、「もてなしポイント」ガイドラインについて、これは崎山委員に作成していただきました。それから、参考資料でございます。それでは委員長、議事進行をよろしく願いいたします。

## (2) 奈良市もてなしのまちづくり推進行動計画について

### 1. 計画の骨子の検討

### 2. もてなしポイント・もてなしポイント部会についての検討

### 3. 取り組みアイデア・意見交換

#### 【村上委員長】

皆様、おはようございます。今、吉村さんからコンサルの話を説明していただきました。それについて話をさせていただきたいと思います。

我々の委員会にコンサルタント会社加わる、係わるというのは、あまり良くない話です。条例の検討の段階からも、市民のサイドから盛り上がったもので、こういう「もてなし」あるいは「まちづくり」全般について、検討がうまくいかない時、コンサルタント会社が出したアイデアを委員会に諮って、それで審議会で答申をして、それがペーパーになるというようなものはうまくいかないというのが私の基本的な考え方です。そんな中で、この委員会に関する一部作業にコンサルタント会社が係わるということは問題ではないかということで、ちょっとクレームを言いました。それで、今、吉村さんがおっしゃっていただいたということです。

どこまでの作業かということ、先ほど説明がありましたけれども、会議の議事録の作成と、それから先進事例の資料の収集とか、それから我々が提案して出来上がったものの、ペーパーのデザイン等という感じです。それについても、私はまだ疑問に思っています。これははっきり申し上げておかななくては駄目だと思います。そういう姿勢、例えば議事録1つの作成にしても、何故そういうものを外へ出すのかと思うわけです。外部の資料収集にしても、今やインターネットで検索すれば、たいていのはキーワードでヒットしてきて、ある程度の資料は集まります。その資料が生きてくるかどうかは、その先進事例がどういう人たちによって担われていて、どういう経緯でそういうものが生まれてきたか、そういう背景をどれだけ知っているかによって、その事例が活かされるのだらうと思います。その辺をきっちり事務局も認識していただかないと、我々がいくら議論して良いものを提案してペーパーにしたところで、実際に市民の間で納得されて、「なるほど、そういうことが必要だ」と、「奈良にも、もてなしをベースにした考え方が広まっていかななくては駄目だ」というふうに広まっていかなないと、提案したのも生きてこないと思います。そういうことを基本に我々は議論を進めてきたはずですし、新たに加わっていただいた公募委員の方についても、その辺は、自分たちはこういう思いがあって、もてなしを通じたまちづくりについて、こういうことを実現したいという思い入れを持って来ていただいているわけです。そういう人たちの意向をきちんとくみとって活かしていくよ

うなものでないと駄目だと思います。

基本的にそういう考えを持っているということで、ご理解いただきたいと思います。

**【事務局】**

委員長からお話がありましたけれども、事務局としては十分にそれを踏まえて、進めさせていきたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

**【村上委員長】**

ということで、コンサルタント会社の方がこの会議に出席するということ、ご理解いただきたいと思います。

それでは、今日、配っていただいています会議次第に従って、議論を進めたいと思います。事務局より説明をお願いしたいと思います。

→事務局より、奈良市・他市における行動計画の目次等について説明。

**【村上委員長】**

事務局の説明に対し、皆様方のご意見をお聞きしたいと思います。何かご意見はありませんか。

**【佐川委員】**

前回の会議では、もてなしポイントに話が集中してしまっていました。もっと奈良市の評価・現状分析が必要ではないでしょうか。具体的に言えば、この間の燈花会のもてなしの評価などをしてはどうかと思うのですが。もてなしと言うからには、具体的な事例に基づいて検討していく必要があります。観光客だけで言えば、受け入れ態勢について例えば奈良駅の周辺は、観光客に対応した造りになっているのか。奈良駅の構内には地図や案内板が少なく、迷っている人が多かったように思います。特に雨が多かったので、相当集中しました。外部の人が来たときに、どこを見てどう行ったらいいのか、悩む人が多かったです。そういうことは、この委員会で検討することなのでしょうか。初めて参加させていただいて、今までの会議の進行過程が分からないのですが、どこまで検討することができるのですか。

**【村上委員長】**

今、佐川さんから話がありましたが、この委員会として、どういうところまで提言をしていくのか、それを作り上げるよりも現状の評価をどうするのかという提案でした。

例えば、燈火会の話がありました。奈良市で様々なイベント等が行われるわけですが、そこへ来られる方々のもてなしについて、現状はどうなっているのかという評価について、それに基づいて新しい提案が必要だというご意見です。委員会としては、いろいろなやり方・進め方があると思います。今の佐川さんのご意見ですが、これを十分に戦わせる意見を出していただく、ブレインストーミングが必要だと思います。

条例を検討するときにもそうだったのですが、もてなしについて、それぞれ一人ひとり委員の皆様方のイメージしているものが違っている。それに基づいて、ではどういう具体的な施策が必要かということについても、それぞれの皆様方の思いが違っている。そういうものをはっきり聞き取った上で、1つの提案にまとめるというのは、短時間でやるのは無理があるとは思っています。それでも、いろいろなアイデアが詰まった、なるほどそれは面白い、やってみようという、そういう提案にしたいという想いです。

他の行動計画、他市の事例と見比べて、こういうものをつくりたいということは形式的には必要かと思いますが、それを提案して市民の皆様方が「それは面白い」と、「自分の行動として何かやってみようか」という取り組みにつながるようなものを提案していく。例えば条例でも、何かの推進機関ということになりますけれども、そういうものを作ってでもやっていこうという、そういう提案にしたいと思っています。

ですので、事務局としては行動計画に決まったものが必要だとお考えかもしれませんが、これは最終段階に置いておいて、こういう形式的な部分は作ってもらっていいです。条例の内容を参考に基本的な考え方で、記述する部分はすぐにでもやってもらえばいいと思います。条例の基本的な施策について、現在市が行っているものは集約して、この計画に盛り込む、盛り込まないは別にして、こういうことを今取り組まれているというのは出していかなくてはいけないのですが、これは進めていただいて結構です。

一番肝心なのは具体的な内容です。この委員会でもてなしのイメージを理解して、まちづくりにつなげる提案として、具体的な内容が盛り込めるかということにかかると思います。その辺の議論を何回か重ねればいいと思います。皆様方、これにこだわらずに、具体的な内容を、いろいろなご意見をいただけたらと思います。

それと、崎山さんが遅れておられますけれども、崎山さんが来られたら前回話題になった「もてなしポイント」について、資料を準備してもらっていますので、それを説明していただこうと思っています。自由に発言していただけたらいいと思います。

#### 【根田副委員長】

今後の計画ですが、行動計画はいつまでに作るということになっていましたか。

#### 【事務局】

当初の予定では来年の1300年祭に合わせてということで、今年中という話でしたが、前回の会議でその辺りは作っていく中で、もう少し柔軟に対応してはどうかということで、皆様のご意見をいただいております。ですから、1300年祭の事業が本格的になる来年の3月ぐらいまでというのも1つの案でしょうが、そこは前回の会議で今後の進み具合、議論の展開によって考えていただくということで終わっております。

#### 【根田副委員長】

期限は考えなくてもいいということでしたら、議論できる時間はあると思います。委員長がおっしゃったように、具体的な内容ですが、これを詰めていかないと何も話が進まない。先ほ

ど、佐川さんもおっしゃられたように、これは内容の話です。それに関しては今までに多数議論して、いろいろなことをしゃべってきたと思います。それを無しにして、さあ、今また議論を始めましょうでは、あまりにも時間の無駄がありますので、今までやってきた内容の議論を、1回出して、整理していただきたいと思います。

**【事務局】**

第11回の検討委員会の際に、委員の皆様が具体的な行動計画の内容につながると思われるところは整理させていただいて、前回のときに資料ということでお配りさせていただいております。

**【中野委員】**

具体的取り組み（案）という資料ですね。

**【事務局】**

条例の柱に沿って出させていただいて、今まで皆様が検討委員会の中でお話いただいて、具体的な内容につながるようなことについては、整理はさせていただいたつもりでございます。

**【野原委員】**

条例に従って、教育だとか観光だとか、活動の促進するものだとかですね。

**【根田副委員長】**

その資料に基づいて議論していく方が早いのではないですか。集約してから議論していただかないと。

**【事務局】**

前はそういう意図もありまして、お配りさせていただきました。

**【根田副委員長】**

集約してから議論していかないといけないと思います。この中から重点推進計画を出していけばよいのではないのでしょうか。

**【村上委員長】**

条例に盛り込まれなかったそれぞれの想い、こういうことをやったらどうかというようなことがたくさんあると思います。それを具体化するため計11回の会議で検討がされました。この資料は、それを議論に反映させたいということだと理解しています。具体的な行動に移すために議論しようということで、条例を検討した委員が全員そのまま引き続き推進委員会の委員になっていただいています。そして公募で2名の方に加わっていただいたという経緯になっています。次第で言えば、計画の骨子の検討に入るということで、事務局に説明していただきまし

た。その中で一番肝心なのは、やはり実施計画に盛り込む具体的な内容だろうということです。

**【村上委員長】**

多岐に渡る議論をしてきたものをベースにして、具体的な内容に盛り込むことを議論したほうがいいという意見が出ました。それが一通り終わったところで、崎山委員から提案していただいた資料の説明をしていただきたいと思います。

**【崎山委員】**

分かりました。

**【野原委員】**

いつどこで誰が何をという形で、頭の中でイメージしていこうと思うのですが。もてなしの推進というのは、あまりにも幅が広いので、ハードとソフトで考えていくと、誰が何をという考えになるかと思います。これは私たちが分かりやすく分析しないといけないと思います。推進委員の役割は、どこから切り込んでいけばいいのでしょうか。

**【村上委員長】**

野原さんがおっしゃっていただいている部分を少しだけ説明します。条例づくりの組み立てで、もてなしのまちづくりについて市が行動計画を作ることになりました。その行動計画を作ることについては、もてなしのまちづくり推進委員会の意見を聞くということになっていて、この委員会が作られているということです。この委員会で議論をして、こういうもてなしのまちづくりがいいのではないかということで、行動計画の形にして、市長に提案する。それを市のほうは、パブリックコメントにかけて、一般の市民の皆様方の意見を聞いた上で、最終的に市長が行動計画として決議する。それを実行に移すのは、この委員会ではなくて、もてなしのまちづくり推進協議会という別組織を作って、そこが提案した行動計画の中身を実行する。そういうシステムになっています。

**【野原委員】**

推進協議会の前の段階ですか。

**【村上委員長】**

そうです。

**【野原委員】**

協議会というのは、学校であるとか地域であるとかの、いろんな団体が参加するのですか。

**【村上委員長】**

そうです。いろいろなまちづくり関係の団体、それから商工会等の団体です。

**【野原委員】**

かなり大きなものになりますね。

**【村上委員長】**

だから、そういう人たちにも、「なるほど、そういうのをやってみようか」というような内容にしたいということです。

**【野原委員】**

行動計画というのは、積極的にどういうふうにやっていくかということですか。

**【村上委員長】**

そうです。こういう行動でやったらどうかという具体的な内容を盛り込みたい。

**【野原委員】**

それが行動計画ですね。それをいつまでにしたらいいのですか。

**【村上委員長】**

前回出していた資料では、年内に行動計画をとということだったのですが、それが難しくれば来年の3月ぐらいまでの間にという話になっています。

**【野原委員】**

遅くとも4月からということですね。今までの奈良、これからの奈良ということで、それを考えるわけですね。

**【村上委員長】**

今、見ていただいている資料が、条例の検討委員会の中で出てきた意見についてまとめたものです。左側の分野と書いてあるのが、条例の見出しに相当する部分になっているんですね。

**【事務局】**

はい。

**【村上委員長】**

もてなしのまちづくり条例の中に、広報及び啓発に関する条項、それから活動の促進に関する条項、それから学習の支援及び教育、観光の振興に関する条項、そういう括りで、これに該当するものについて、我々が出した意見についてまとめてもらっているということです。

では、改めて議論の進め方でご意見がある方はおられますか。

**【根田副委員長】**

実施計画をどういった形にするのかというのは、やり方だと思いますが、観光、教育のように分野別にするか、地区計画のような、地区でどういうふうに行っていくかという形式になるかだと思います。そこまでやっていくのですか。それとも、まず対象別に並べて、その中をどう抽出していくかということを始めたいでしょうか。

**【佐川委員】**

事務局にお聞きしたいのですが。これに対する本気度はどうですか。例えば、私は2年前にも市民参画ということで、財政分野で参加しました。それぞれの分野からいろんな提言がありました。一応去年で終わり、ありがとうございますという礼状が来て、それっきりです。あれは何だったのでしょうか。多くの市民が参加して、それぞれの分野で、それなりにやったつもりです。それがどう行政に反映されたのかという疑問が残っています。今回また、この推進委員になって、行動計画、実施計画について提言する。それが行政へどう反映されるのか。皆様が忙しい中で来ているわけです。市長が変わって、方針が変わって、ありがとうございますではない。そういう実例があったので、公表させていただきました。

**【村上委員長】**

答えにくいと思いますが、吉村さんをお願いします。

**【事務局】**

今の事例についてはコメントする立場ではないのですが。もてなしのまちづくり条例については、市長が変わろうが、もてなしというのが重要であるというふうに認識しておりますので、影響はないと思っております。もちろん私も事務局のほうも、やる以上は、できた、はい終わりではなく、確かにそういうご批判はいろいろなところで聞きますが、それを真摯に受け止めて、そういうことがないようにしていきます。

**【村上委員長】**

我々が議論して実際にそれが活かされることを願っているわけです。条例づくりの時もそうですが、条例だけを作って、職員がぽんと机の中に入れておくという、そういう条例を作っても意味がないということは、再三議論してきています。

これも、公募の委員のお二人に説明しておかないといけないのですが、条例づくりの中で、この推進委員会の役割について、激論を交わしました。それは何かと言うと、この委員会が、提言した中身を実際に実行に移す委員会になればいいのではないかと、そこまでは委員会の役割ではないという意見がありました。そして、先ほど説明したように行動計画そのものの議論をして市長に提案する。決定するかどうかは市の判断に委ねるということになります。それを実際に実行に移すときは、そのための協議会を作って、その組織が実行に移す。そこに至る行動計画を提案する。最終的にはそういうシステムになりました。

そういう経緯もあって、我々としても実際に実行に移せるような中身をどれだけ提案できる



かというところですが、我々の委員会の力量が問われるところではないかと思えます。面白いから是非やらないと駄目だと思ふようなものを提案しましょうということで、議論をするということ。他に議論をするべきだというご意見がありましたら、どうぞ発言して下さい。

先ほど、根田さんからありましたように、いろんな柱立て、この条例の条項の括りで議論をするというのも1つの方法ですし、それよりも具体的な、先ほどから出ているような実施計画の中身の柱について議論をするということもあるかと思えます。

#### 【根田副委員長】

どちらの枠組みでやっていくかですが。今の問題で、例えば、いろいろな意見を出して、それをある程度章立てとして集約させるところまで、あと1時間ちょっとでいくかというところですが、とてもいきそうにないと思えます。また、ポイントの話もこれからしなければいけません。そういうことでしたら、これをある程度事務局のほうでまとめてもらうとか、我々のほうで宿題とするとか、それをある程度、少なくとも章立てぐらいのことがないと、なかなか先に進まないと思えます。ポイントの話の前に、時間が終わってしまうのではないかと思えます。それなら、先にポイントの話をして、次のときにまだ間に合うのでしたら、宿題にした方が、効率的かなと思えます。

#### 【村上委員長】

根田さんがおっしゃったように章立てということもあります。ポイントの話をしたということもあります。その間に、実は前回にメーリングリストができないかという話をして、議論はこの会議の場だけではなくて、メールでやり取りができるということを言っていました。条例の検討委員会の時からそうですけれども、根田さんなんかは、こんなにこき使われる委員会とは思わなかったというご意見が出たぐらい、いろいろな意味で、時間も皆様方にさいわいで、実際、条例まで検討していただいたわけです。今回、皆様方にも、この委員会での場だけの議論ではなくて、次回までに検討するとか、それまでの間にメールでやり取りをするとか、そういうやり取りがないと、来年の3月にも間に合わないことになってしまうのではないかと思えます。

これも提案ですが、章立てと言っても、今の時点で章立ての案もないものが1時間でできるわけがないので、1つは、まとめていただいているもので、今まで我々が議論した条例の条文条項ごとにまとめてもらっているのですが、この中で、この行動計画の中に盛り込んだらどうかというものを次回までに出していただく。それで、委員の皆様方で自分の案だと思われるものについて、これを肉付けして出したいというものがあれば、それは崎山さんが資料にしてもらったような形で出していただく。それを次回までにするということでおねがいします。

#### 【根田副委員長】

今回みんなで意見をして、章立てぐらいに出来ると思って、この推進委員会に提出したのかをお聞きしたいのですが。

**【事務局】**

前回にお配りさせていただいた時に、今までの経過も踏まえて、委員の皆様から、具体的な新しい取り組み、いろいろなご提案なりをいただけたらと思いました。今までの会議の中で、提案された内容について見ていただきながら、ご議論いただけたらと思って、私としては11回開催した会議録を読みながら、1つ1つまとめさせていただいたつもりです。ですから、根田委員がおっしゃったように、事務局としてこれを更にまとめるということであれば、時間の都合もありますが、まず皆様にご議論をいただいた上で、事務局として、また次に対応させていただいたほうがよろしいかなと思います。

**【根田副委員長】**

皆さんでいろいろな意見を出して、組み立てを作れなくてもかまわないというふうに思われるのですか。

**【事務局】**

こちらとしてはスケジュールの都合もございますので、いただいた提案を整理して、組み立てていくのは早くしたいと思っていたのですが。前回の中でも、もう少しご議論されたいと、今回もう1度この内容についてご議論いただくとおっしゃっていました。

**【中山委員】**

実施計画のところで、2つか3つ重要なものを絞り込むほうがいいと思います。今までの議論いただいた中で大きな柱になり得るものを、みんなで確認した上でポイント制度を柱とするかどうか、柱になりそうなものについて考えたらどうでしょうか。

**【奥西委員】**

私も同じような意見ですけれども、非常に範囲が広いと思います。いろいろなことを求めすぎて難しいと思います。2つか3つに絞込んでというのがいいと思います。

**【中野委員】**

前回の宿題で、重点推進項目をつくらうということだったと思うのですが。

**【村上委員長】**

実施計画について、いくつかの柱になるものを提案する。その中の1つがポイント制度ということですが。

これから、先ほど説明していただいたポイント制度について議論したいと思います。先ほど言いましたが、それ以外の柱について、これは是非というものを次回までに宿題というか、これを柱に取り上げたらどうかというものを挙げていただくようにしたいと思います。よろしいですか。

そういうことで、今日の議論を進めたいと思います。それでは、崎山さん、作っていただい

た資料から説明をお願いしたいと思います。

**【崎山委員】**

→資料についての説明

**【村上委員長】**

先ほどもおっしゃいましたけれども、これを議論するための部会を設けるということについては前回了解をしたと思います。中山さんはその部会を設ける時の議論の時にはおられなかったのですが、先にそう決めさせていただきました。是非、入っていただきたいということで、根田さんと中山さんと崎山さんの3人で、この委員の中ではポイント部会の委員になっていただく。それ以外に県立大の戸田さんが地域通貨について勉強されているというので、部会の委員になっていただいたらどうかという意見が出ました。それについては推進委員会の規定で、部会員に委員以外の人になる場合は、市長が選任するということになっていたので、そのことについては保留としております。

**【崎山委員】**

メーリングリストを作って、メールで意見交換するということまではいかに、この委員会には間に合わなかったということです。

**【根田副委員長】**

部会を開催するかどうかということですね。それから、県立大の人を入れるか、それとも単に1回だけ話を聞くのか、3人のところにメールがきたと思いますが。その扱いはどうなるのですか。

**【事務局】**

今、村上さんがおっしゃったように、メールの情報については、それぞれ根田先生、中山先生、崎山委員には発信させていただいております。その中で、まずはメールでやり取りをして、ある程度出来上がってから、県立大学の戸田先生に相談されたらどうかという形で、皆様はご意見をお持ちでしたので、今日、どうするかを決めていただければ、と思っています。

**【村上委員長】**

県立大の先生とコンタクトは取られたのですか。

**【事務局】**

具体的にはまだです。ある程度話を詰めてからというようなことをおっしゃっていたので。

**【根田副委員長】**

私は最初に県立大の先生に講演をしてもらって、地域通貨の話をどういうふうにするかとい

うことを聞いて、それから考えてもいいのではないかという形で提案したと思うのですけれども。もっと詰めてからということですか。

**【事務局】**

その辺りは、部会の運営の仕方もございますので、崎山委員と中山委員と根田委員でご相談いただければと思ったのですが。

**【中山委員】**

とりあえず今日3人で議論して決めます。

**【村上委員長】**

今日、議論をして、その出た意見を反映して、部会で次回までに相談していただいて、もう1度提案していただくという方向でよろしいですか。県立大の戸田さんをどうするかですね。今の根田さんのご意見だと、地域通貨の話、この委員会でしていただくということでしょうか。

**【根田副委員長】**

まず話を聞くのが1番分かるかなと思ったのですが。そういうことは可能ですか。

**【村上委員長】**

委員会に来ていただくというのは、別に問題はないですね。

**【事務局】**

問題はないです。

**【村上委員長】**

報酬とかは出ないということですか。

**【事務局】**

手続きを踏めば大丈夫だと思います。

**【根田副委員長】**

では、3人で話し合っ、この人を呼ぼうとか、もっと別の人の話も聞きたいという場合は、可能かもしれないということですか。

**【事務局】**

予算に限りがありますので、あまりたくさんという訳にはいかないと思いますが。

**【村上委員長】**

分かりました。

**【村上委員長】**

崎山さんの提案は、ポイントを得た人が地域通貨のように使用できるというものですか。また、その場合原資はどこが出すのでしょうか。方法として奈良市を訪れる人（観光客等）にどこかの時点でポイント（シール等）を渡し、もてなしを受けた際にそれを使って、受け取った人が地域通貨と同じように使えるシステムなのですか。

**【崎山委員】**

そういう考え方もあると思っていきましたが、例えば行政が予算をとり、地域通貨券を作って、配布していただくだけでは、行政だけしかわからない（評価できない）と思います。

「もてなしポイント」は条例をPRするものとしたいと思います。ポイントが自分に還ってくるのか、奈良市に還元するのか2通りの考え方があります。地域通貨券では、買い物して終わりになってしまうので、それよりも奈良を良くすることに使いたい。評価することによって、まちなみがきれいになっていくというものにしたい。自分達で使うものではなく、奈良市に還元していくポイント制というスタンスと理解してほしい。

**【村上委員長】**

評価は何らかの形ですとして、シールなどを発行するのはNPOなどの推進協議会が主体となるということでしょうか。

**【崎山委員】**

大学との連携等を考えたいです。行政に決裁をもらって予算をもらうということが必要です。

**【野原委員】**

民間団体などの登録制なのでしょうか。私のイメージではこの取り組みは、全市民が参加できるものだと思ったのですが。

**【崎山委員】**

奈良市民全員が参加できるものです。誰かが評価しなければならないので仮に推進協議会を提案しています。

**【野原委員】**

対象人口が多く、もてなしという言葉の幅も考えると、基準を考えていかなければいけないと思います。

**【崎山委員】**

絞り込んだ項目を2つ、3つ出していくという形がいいと思います。

**【野原委員】**

新しい取り組みとして、例えば「もてなしの5か条」をつくって、これに当てはまるものにポイントを与えるというのはどうでしょうか。その場合の対象者は奈良市民全員ではどうでしょう。

**【崎山委員】**

はじめにポイントを渡してもいいし、ゼロから貯まっていく形でもいいと思います。

**【野原委員】**

NPOなどが活動していることは把握できますが、対象が市民全員では、とりまとめは市がするのでしょうか。

**【崎山委員】**

先に条例ができていますので、あてはまるような取り組みにポイントを与えるというふうに考えています。

**【野原委員】**

シンプルで良いのでは。団体が登録する形がわかりやすいと思います。市民全体にすると判定がむずかしいのではないのでしょうか。

**【崎山委員】**

市民全員ではなく、シンプルにしてしまうということでしょうか。

**【野原委員】**

可能な方向で考えるとそうなります。わかりやすいと思います。

**【中野委員】**

ホテル業界でもシーツやアメニティグッズを使わなかった場合に、お客様から「グリーンコイン」を回収して、集まった分だけ木を植える活動に寄付するということをやっています。自己申告ですが、広報ができ、PDCAサイクルにつながります。使ったか使わなかったかだけなので、わかりやすい。意識付けとして、「ありがとう」と思ったかどうかだけで観光客に評価してもらおうというのではどうでしょうか。

**【野原委員】**

学校などの取り組みを協議会に報告するというのはどうでしょうか。

**【村上委員長】**

シールのようなものは介在しないのでしょうか。

**【野原委員】**

子どもが喜ぶからシールのようなものはあっても良いと思います。

**【奥西委員】**

誰でも参加しやすい継続性のあるもので、コスト、手間がかからないシンプルな運営が必要だと思います。ITでできないでしょうか。8月5日の日経新聞に介護ボランティアの話として、1時間につき1ポイント、1ポイントは申請すれば、50円になるという事例がありました。

**【佐野委員】**

ITは項目に入れるべきだと思います。奈良市観光協会が中心となって吉野・明日香・橿原の観光関係が協力して進めているポイント情報提供の「この鹿にピンと来たら」では、鹿マークのあるポイントにおいて、バーコードを読み取ると観光スポットの情報が携帯で見られるようになっています。同じように、端末とバーコードを活用して、楽しかったら「イエス」と入力する仕組みはどうでしょうか。評価する人が行政、企業とありますが、評価は中の人より外の人の方が、奈良市の場合には良いと思います。病院とかもあるので難しいと思いますが、バーコードを用いて、アクセスし、「イエス」「ノー」でできれば。通信会社等との関係もありますが、良かった事柄を端的に書いてもらうなどどうでしょう。

**【村上委員長】**

シンプルな取り組み、コストのかからないITなどが最低限必要ではないでしょうか。

**【佐野委員】**

最初のきっかけが1300年祭だとしたら、外部の人の参加を上手に考えたほうがその後の取り組みにつながっていくと思います。

**【佐川委員】**

ボランティアで市内の寺社を月に一回掃除している奉仕団体がありますが、これをどう評価するのでしょうか。外部の人にはわからないこともあります。どのように還元していくのでしょうか。学校関係はどうか。教育委員会は特定の学校だけが評価されるのを嫌うのではないのでしょうか。

**【野原委員】**

取り組みに対してのキャンペーン。できるだけ公平に当たり前のことを評価するのがいいと思います。あいさつは評価しないのですか。本来もてなしは目に見えないことです。お金に換わったりすると誤解を生むので、個々に申請したらどうでしょう。

**【根田副委員長】**

この後3人で部会を開き、検討していきます。地域通貨のようなポイントとしていくか。それとも感謝の気持ちを評価していくか。すべて対象にするのは無理だと思うので絞っていきたいと思います。

**【村上委員長】**

今の点でどうですか。部会で決定していただくということです。それでは、今の委員会の意見を踏まえて、3人の部会で検討していただいて、次回に案を出していただくということよろしいですか。もてなしポイント以外で、実施計画の柱にしてはどうかというものがあれば、次回に皆様に出していただくということで、よろしいですか。

それでは、次回の委員会ですが、事務局で日程調整のメールを流していただいています、委員の皆様方の都合を、よければ言っていただいて決めたいと思います。

**【事務局】**

日程調整をさせていただきます、現在のところ、10月8日の午後が一番皆様に集まっていたということですが、最終的に委員の皆様で日程調整を確認していただいでよろしいでしょうか。

**【村上委員長】**

10月20日で決定しましょう。今から予定を入れて下さい。10時から12時で。それでは事務局のほうにお返しします。

**【事務局】**

委員の皆様、ありがとうございました。次回10月20日（火）10時からということで、またご案内を送らせていただきます。これをもちまして、第2回奈良市もてなしのまちづくり推進委員会を終了いたします。長時間ありがとうございました。